

# 矢板宿の今昔 ～現代に残る屋号～

栃木県立矢板高等学校 リバラルアーツ同好会 地理研究班 河野邊 晶

## 1 はじめに

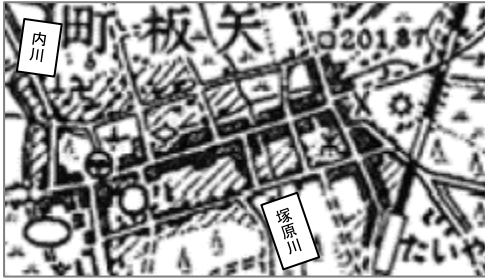
矢板市を流れる河川に架かる橋の名称の研究をしていた際に出会った「宿屋橋」の由来に疑問を持ち、「昔この地域には宿場があったのではないかと仮説を立ててその謎に迫るとともに、その宿場の様相を明らかにした。

矢板宿は、栃木県矢板市の国道461号線（日光北街道）付近にある集落のかつての名称を指す。本研究では『矢板市史』にある矢板村宿割図に示されており、内川と塚原川に挟まれ、日光北街道に面している集落を矢板宿と定義している。

## 2 調査方法

矢板宿の昔の姿を知るため、今昔マップによる新旧地形図の比較や、『矢板市史』等を用いた文献調査を行った。また、現在の矢板宿の姿を探るため、国道461号線沿いの土地利用の観察や、いくつかの店舗の方などへの聞き取り調査を行った。

## 3 (1) 昔の矢板宿



明治43年頃の矢板宿（今昔マップより作成）

- 1636年に日光東照宮の改築が終わり、現栃木県宇都宮市以北の大名小名が参勤交代の際日光に社参することができるようになり、同日光市～同大田原市間に日光北街道が整備されたのをきっかけとして近隣の住民が道路沿いに集まり、矢板宿ができた。
- 1695年に元々使用していた会津西街道の代わりに会津中街道が開かれ、西街道が復活するまでの約30年間は人馬、諸荷物が集まり、活況を呈していた。
- 酒屋、紙屋、米屋、塩屋といった屋号を持つ店が軒を連ね、日用品・食料品などの販売が行われていた。また、石屋や左官屋など、生活に欠かせない商売も営まれていた。

現内川	西坂巻家	松本家	根本家	中村家村役人	(武)坂巻家	奈良屋中村家	問屋坂巻家	安沢屋中村家	吉見屋阿久津家	蔦屋阿久津家	富屋高田家	石橋福島家	トナリ福島家	塩屋川島家	酒屋坂巻家	中村家	松屋大貫家	亀屋坂巻家	角屋斉藤家	紙屋小野崎家	小野崎家	下堂端大谷津家	上堂端大谷津家	現塚原川	
本通り																									
現内川	中屋中村家	玉屋中村家	小松屋小口家	鍋屋大谷津家	江戸屋大谷津家	大谷津家	住吉屋荒井家	丸屋宮崎家	宮崎家	関屋大島家	新屋川島家	左官屋福田家	柏屋宮崎家	いろは屋小田部家	宮崎家	鍛冶家宮崎家	米屋大谷津家	青山家	福田家	釜屋川島家	石屋川島家				現塚原川

江戸時代末期 矢板村宿割図（『矢板市史』より作成）

## (2) 現在の矢板宿



矢板宿があったとされる現在の国道461号線付近（地理院地図より作成）

- 現在の国道461号線沿いは個人商店（例：7 呉服店、15 薬局、58 蒟蒻の卸売業）も見られたが昔ほどではなく、中小規模の事業所や閉店した店舗、民家が多かった。
- 現在も営業している店舗で、かつ店名に屋号を冠した個人商店が3つ残っていた。
- 比較的新しい店舗（例：44 美容室、45 パン屋、50 ガス会社）も見られた。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	
内川	民家	民家	置工業所	民家	空地	呉服店	矢板武	記念館	民家	空き家	民家	民家	民家	薬局	公民館	民家	アパート	駐車場	駐車場	クリーニング	建設業	多機能型事業所	不動産	民家	民家	★紙屋輪店	民家	旧時計屋	旧洋品店	せともの店	駐車場	民家	民家	塚原川
会津中街道																																		
京町橋	内川	民家	民家	民家	空き店舗	置工業所	歯医者	民家	蒟蒻の卸売業	旧印刷業	和服屋	牌かい香支援センター	民家	民家	J A 共済連柄木	民家	ガス会社	民家	不動産	空地一部は認定こども園	建設業	パン屋	美容室	民家	旧中華料理店	空き家	★かざりや釣具店	民家	駐車場	駐車場	定食屋	★はりまや	塚原川	
66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35			

現在の国道461号線付近の土地利用

注1) ピンク：公共施設 黄：個人商店 緑：事業所 灰色：民家 白：空き家もしくは閉店した店舗  
注2) ★の商店は、店名に屋号が残っていたものである

## 4 屋号が残っている店舗への聞き取り調査の結果

### 紙屋輪店

小野崎という姓の地主が紙屋を営んでいたが、時代の流れにより紙屋では生計を立てるのが困難になったため、当時鍛冶屋を営んでいた現店主の祖先を矢板に呼び、新事業として自転車屋を始めさせた。紙屋・小野崎は矢板村宿割図でも見られ、古くから矢板の中心地で商売をしていたことが分かる。

### かざりや釣具店

およそ100年前にキセルや装飾品の職人であった店主の祖先が、現栃木県足利市から矢板に来て商売を始めた。「かざりや」という屋号はその名残である。釣具屋は、たばこがキセルから紙たばこに移り、キセルの需要が少なくなってしまうこと、当時娯楽となるものが少なかったことから始めた。

### はりまや

店主の祖先が歌舞伎役者であり、「播磨屋播蔵」という名を貰って活動していたことが屋号「はりまや」の由来である。現在の和菓子屋に事業が移ったきっかけは、歌舞伎役者としての収入だけでは食っていけなかった祖先の奥さんが生活の足しにするべく饅頭を売っていたからである。

## 5 考察とまとめ

矢板宿の今昔を比較してみると、かつて矢板宿は諸機能を備えた地域の中心だったと言えるかもしれないが、現在はそうとは言い難い。そうなった背景として、近くに大型スーパーなどができたことによって、商業の需要が変化していったことが挙げられるのではないかと考える。また、聞き取り調査を通して、現在も屋号が残っているどの店舗も事業を転換しており、世の中のニーズに合わせ、柔軟に事業を変えていくことで、歴史ある屋号を今日まで残してきたことが分かった。

## 参考文献

- 今昔マップ (2023.8.28閲覧) <http://ktgis.net/kjmapw/index.html>  
 地理院地図 (2023.8.28閲覧) <https://maps.gsi.go.jp/>  
 矢板市史編集委員会編『矢板市史』矢板市 1981年  
 矢板市教育委員会編『ふるさと矢板のあゆみ』矢板市 1988年  
 奥田久 監修『栃木の街道』栃木県文化協会 1978年  
 矢板市教育委員会編『矢板市の古道』2012年  
 株式会社ゼンリン『ゼンリン住宅地図 栃木県矢板市』2013年